

**12. 骨シンチグラムにて骨外異所集積を呈した前立腺横紋筋肉腫の一例**

相澤 卓 間宮 良美 塩澤 寛明  
 秋山 昭人 並木 一典 三木 誠  
 (東京医大・泌)  
 鈴木 孝成 (同・放)

23歳、男性。肉眼的血尿を主訴に来院。外来にて精査中、尿閉および両下肢麻痺が出現し、さらに急性腎不全、DIC様症状を呈したため、入院となった。前立腺横紋筋肉腫とその多発性骨転移の診断にて腎機能安定後、Vincristine, Cyclophosphamide, Actinomycin Dによる化学療法を3コース施行した。全身状態はやや改善したものの両下肢麻痺は改善せず。骨転移の治療評価のために施行した骨シンチグラムにて著明な骨外異所集積(肺、胃、腎)を認めた。その後、全身状態は徐々に悪化し約2週後に死亡した。骨シンチグラム施行時、血中カルシウムは17.1 mg/dlと高値を呈していた。

悪性腫瘍に伴う血中カルシウム血症による骨外異所集積例の予後は非常に悪く、ほとんどが骨シンチグラフィ施行後1か月以内に死亡している。若干の文献的考察を加えて報告した。

**13. 肝胆腫瘍における<sup>201</sup>Tl-<sup>99m</sup>TcサブトラクションSPECT**

戸川 貴史 油井 信春 木下富士美  
 柳沢 正道 (千葉がんセ・核)  
 山田 滋 (同・消外)

胆道癌3例、原発性肝癌1例、胆囊癌1例、肉芽腫性胆囊炎1例に計9回の<sup>201</sup>Tl-<sup>99m</sup>TcサブトラクションSPECTを行い、肝胆道腫瘍の描出に本法が有用か否か検討した。塩化タリウム111 MBqと<sup>99m</sup>Tc-フチン酸185 MBqを同時投与し、3検出器回転型SPECT装置を用い、<sup>201</sup>Tl-<sup>99m</sup>Tcサブトラクション画像を作成した。悪性腫瘍5例中4例で陽性所見が得られた。治療後は陰性となり、治療効果判定にも有用であると思われる。疑陽性の1例は肉芽組織に<sup>201</sup>Tlが集積したものと考えられた。<sup>201</sup>Tl-<sup>99m</sup>TcサブトラクションSPECTは肝胆腫瘍に応用可能であり、有用性が高いと思われる。

**14. <sup>201</sup>Tl, <sup>99m</sup>Tc-DTPA 2核種SPECTによる縦隔腫瘍の診断**

尾尻 博也 守谷 悅男 平瀬 清  
 川上 憲司 (慈恵医大・放)

〔目的〕組織診断の確定した縦隔腫瘍10例に対し、<sup>201</sup>Tl SPECTを施行、その結果を対比検討した。その5例には<sup>99m</sup>Tc-DTPA SPECTを行い、2核種SPECTの有用性を検討した。

〔結果〕<sup>201</sup>Tl SPECTで胸腺嚢胞を除く胸腺疾患では、いずれも集積を示した。<sup>99m</sup>Tc-DTPA SPECTでは胸腺疾患の集積ではなく、神経鞘腫、奇形腫で集積+であった。

〔結語〕<sup>201</sup>Tl SPECTは、集積強度から各胸腺疾患の鑑別は困難であるが悪性胸腺で有用であった。<sup>99m</sup>Tc-DTPA SPECTは以前の報告に見られるように神経原性腫瘍で集積し、2核種SPECTも結果の組み合わせによる疾患の特定に有用性が示唆された。

**15. サイトメガロウイルス感染症の一例**

—<sup>67</sup>Gaシンチグラフィ所見を中心に—

西巻 博 石井 勝己 中沢 圭治  
 片桐 科子 西山 正吾 遠藤 高  
 磯部 義憲 (北里大・放)

今回われわれは成人健常者に発症したサイトメガロウイルス(CMV)感染症の一例を経験したので報告する。症例:42歳、男性。発熱(3週間、39°C)および乾性咳嗽を主訴に1990年6月6日当院内科に入院となった。入院時39°Cの発熱および咽頭の発赤・腫脹、嚥下痛、頸部リンパ節触知したが、聴診では肺に異常を認めなかつた。入院中の検査においてリンパ球の著増、異型リンパ球、CMV-IgM陽性が認められ、CMVの初感染(CMV単核症)と診断された。胸部単純X線像では異常所見を指摘できなかつたが、Gaシンチにおいて両側全肺野にびまん性の不均一なRI集積増加を認めた。Ga集積の機序は不明であるが、CMV単独感染による肺のなんらかの病的変化を反映したものと考えられた。